

1940 ~ 2010

**HISTORY
OF
KEIMEI GAKUEN**



写真集70年の歩み

理事長・学園長

平野 吉三

学園には、これまで「年史」というものはありませんでした。同窓生と教職員一人ひとりが歴史を体現していると言えば格好いいのですが、年史を編むゆとりもないほど、全力を教育に注ぎ込んできたためです。唯一、本間平安子女史の手による教育実践記録『学舎はのびのびと楽しく』で学園の歴史をたどるほかありません。

そんな中で編集委員は倉庫の中から、卒業生のアルバム帳からと、あらゆる手段を講じて学園にまつわる写真を集め、整理し、「写真集70年の歩み」の発刊となったのです。これをひとつの「学園年史」としてゆっくりページをめくっていただければ、言葉で語れない時代時代の姿がリアルによみがえってくるはずです。

実は啓明学園の創立には前史がありました。旧制の成蹊高等学校に昭和10年、海外勤務者の子弟を受け入れる「操要学級」が開設されました。当時の浅野孝之校長が海外視察の途上、海外勤務者の多くが帰国後の子弟の教育に多大な悩みを持っていることを知り、開設に尽力したものです。しかし、わずか二年で浅野校長は成蹊

を去り、同校の進学化の動きの中で、理事会は1939年度限りで操要学級の閉鎖を決定したのです。

開設以来、学級を担当してきた菅野尚明氏は、今でいう帰国子女教育を専門に行う学校を作るべく奔走するのですが、当時の文部省では対応できるはずはありません。たまたま操要学級の保護者の一人に三井高維氏がいたのは、まさに天祐です。三井高維氏は三井財閥本家の三男で、英国に家族を連れ留学していたことから、海外勤務者の苦悩が痛いほど分かり、1939年の秋、菅野氏(後に校長)の共鳴で学校設立を決心しました。当時立教学院の木村重治氏(初代校長)や伯爵の樺山愛輔氏(初代の理事長)の協力も得て、学校設立の申請手続きは急ピッチで進められ、1940年3月14日「啓明学園小学校」の認可に漕ぎ着けました。翌15日の朝、東京・赤坂台町の三井邸に、当時の五大新聞社の車が全て集まる騒ぎになったというほどの出来事でした。

1940年4月8日に開校した啓明学園は、翌年旧制中学部・高等女学部を設置し、以降70年、前人未踏の歩みを続けてきました。1941年の国民学校令、そして太平洋戦争が、学園の苦難に拍車をかけました。さらに1945年11月、GHQの財閥解体指令は、学園を支えてきた資金源を絶ったのです。また、1946年10月の「農地調査法」「自作農創設特別措置法」の公布により、学園の校地は“農地解放”の荒波にもまれることとなりました。食糧に

も事欠く時代にあつて、学園の杉や樺などの樹木はもちろん、三井家自慢の庭石まで運営資金に化けていきました。戦災で赤坂校舎を失ったため、疎開地であつた現在の場所で授業を再開しましたが、机や椅子も不足し、近所の公立学校が廃棄する古い机・椅子などをもらいに行く時代が続きました。二代目の理事長にアメリカ人宣教師、O・D・ビックスラー氏を迎えました。依然として経営難の中、グラウンドを日産自動車の駐車場として、また乳牛を飼って「啓明牛乳」を販売するなど資金集めに奔走したと聞いています。ビックスラー氏は17年間学校運営に懸けた末、1968年米国遊説中に逝去いたしました。その後、創設者の高維氏が三代目の理事長として亡くなるまでの9年間就き、1979年夫人の英子氏が後を受け継ぐ時代へと移り進んできたのです。

“啓明”は明けの明星、つまり金星です。オックスフォードで学んだ三井高維氏が、なぜ学園の名前をそう決めたのかは記録がありませんが、明け方、夜空の星がかすみ始める頃、東の空で一際明るく輝く啓明は、孤高の誇りと啓示を意味したに違いありません。高維氏が好んで引用した聖書の、いわゆる「山上の垂訓」の部分を読み返す時、「正直・純潔・無私・愛」のモットーが輝きを放ち始めます。時代の状況がどうであれ、常に絶対なるものを信じて努力すること……まさに「宝は天に積み」と子どもたちにメッセージを送り続けているのです。

啓明学園々歌

つばさをひろげて

作詞 本間平安子
作曲 水谷陽宏

一

紫にゆり 山なみはるが
みなりと遠い 多摩の川
あゝ美し自然のけしに
恵みとくえよ わが母校
啓明 啓明 啓明 啓明 啓明 啓明

二

空の輝き 地に光かち
鳥はうたい 花ひろく
あゝ心よ心の若人の
あつまるころ わが母校
啓明 啓明 啓明 啓明 啓明 啓明

三

世界の友と手をつなぐゆき
愛と平和の交りに
あゝ平和をつくる若人、
学びのじやよ わが母校
啓明 啓明 啓明 啓明 啓明 啓明

HISTORY OF KEIMEI GAKUEN

1940 ~ 2010



70th Anniversary

あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。(ヨハネによる福音書8:32)

学園創立

1940年(昭和15) 赤坂台町三井高維私邸を校舎として啓明学園が誕生。
日本をめぐる世界情勢が戦争へと動き出す中、海外より帰国した生徒8名が入学する。



赤坂台町校舎正面



開校式(赤坂台町校舎の庭)

教育精神と指導法

本学園は左記の教育精神と指導法を以て其の目標として居ります。

一、一指導教師の受持児童数を十名以下とし、児童個々の特殊事情を参酌しつつ、個別指導と實踐、體驗主義に基く自發教育とによつて其の個性を活かし、智能、徳性の自由なる發展を期すると共に、特に國體の本義と日本精神及日本文化の優秀性を會得、體認せしめ、將來國民指導者としての資質即ち信念、氣魄、識見、徳行、情操、健康の涵養向上に力むること。

一、外國語(英・獨・佛)については夫々専門教師の指導によつて進歩向上をはかり國際的に有能に活動し得る素地を養成し、溝通博大なる氣宇の涵養と相俟つて將來世界的活動の人材を造ること。

一、一戸数名を收容する寄宿寮を設け、信頼し得る指導者夫妻を中心にした家庭的閑雅生活の中に獨立心を涵養し、共同生活の訓練を行ふこと。

(小学校 要覧)



昭和15年5月 開校当初の生徒たち

創立の趣旨

海外在勤の帝國外交官、軍人、實業家等にとつて常に焦慮措く能はざるものは其の子弟の教育問題であります。即ち任地に文部省在外指定小學校の設備なき爲國民教育を受けしむることを得ず、随つて歸朝後其の國語力の不足、國民常識の缺乏、年齢の超過等の關係から内地小學校に入学の困難を痛感することは海外在勤者の齊しく経験する所であります。是を以て子弟教育の爲己びを得ず家族を内地に留め、或は歸朝を急ぐ等安んじて永く其の業務に服し得ないことは、當人の不幸のみならず邦家の爲にも誠に遺憾に堪へない所であります。

斯る特殊兒童の爲に特殊教育機關を設置することは時宜に適應する國家的事業であると考え、取敢へず尋常小學校を開設し、更に進んで中・女學校を併置して一貫教育の理想を實現し、以て父兄の要望に應へたいとの全願から創立されたのが本学園であります。



初代校長
木村重治



弘く私邸を開放

海外在勤者の子弟教育のため

三井高維氏が「啓明学園」



「啓明学園」の設立は、海外在勤者の子弟教育のため、三井高維氏が、其の私邸を開放して、学園を創設したものである。学園の設立は、昭和十五年三月二十四日、東京日日新聞に掲載された。学園の設立は、海外在勤者の子弟教育のため、三井高維氏が、其の私邸を開放して、学園を創設したものである。学園の設立は、昭和十五年三月二十四日、東京日日新聞に掲載された。

昭和15年3月24日(日) 東京日日新聞



初代理事長 (1941年～)
樺山 愛輔



第二代理事長 (1951年～)
O・D・ピックスラー



第三代理事長 (1968年～)
ディーン・ピックスラー



名誉校長 (1951～1985年
校長在任)
菅野 尚明



第四代理事長 (1970年～)
三井 高維



第五代理事長 (1979年～)
三井 英子



第六代理事長 (1997年～)
平野 吉三

創立者 三井高維・英子夫妻

三井高維は1901年(明治34)、三井総本家の三男として生まれる。東京帝国大学卒業後、横浜正金銀行に勤務。1935年(昭和10)、英国オックスフォードへ留学。留学中、ブックマン博士(宣教師・MRA創始者)より夫人と共に受洗。帰国後、海外勤務者子弟の教育のため啓明学園を創立。戦後、学園の経営から退いたが、1970年(昭和45)理事長に就任。1979年(昭和54)7月逝去。三井英子は1970年より寮長を務め、1979年高維の逝去に伴い理事長に就任。1997年(平成9)5月逝去。



創立者 三井高維



三井高維・英子夫妻



昭和16年 第一回創立記念日
三井高維の誕生日4月22日を創立記念日とする



学芸会での三井夫妻
ポケットに手を入れるのが「高維スタイル」



昭和20年
赤坂台町校舎の焼け跡前で
「焼け跡なのにHappyそうな顔して
いるでしょう。(三井英子先生談)」
([いずみ]創刊号より)



寮生とともに(昭和53年『家庭画報』より)



平成6年 卒寿のお祝い

O・D・ビックスラー

昭和26年、米人宣教師O・D・ビックスラーが理事長に就任し（～昭和43年）、クリスチャンスクールとしてキリストの真精神を教育の基礎に置くことを明確に打ち出す。



O・D・ビックスラー



Keimei Christian Academy のバッジ



運動会開会式でのミセスビックスラーの賛美指導



ビックスラー夫妻



三井英子先生と共に



運動会



バイブルキャンプ（北泉寮）



夏のバイブルクラス

だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。（マタイによる福音書7：12）

赤坂台町生活

三井高維夫妻の邸の階下が全部学校の校舎になった。広い大きなガラス窓のあるベランダが教室である。細長い教室である。教室のすぐ下は花壇、その先に高麗芝の庭があり、周りは椎の大木が茂り、その根元にはヤツデなどの灌木が葉を広げていた。(『学舎はのびのびと楽しく』より)



庭より校舎を臨む



校舎一階



校舎二階



体育は庭で



昭和17年 クリスマス会



クリスマス会後の祝会



音楽は二階の応接間で

緊迫を加える戦局の中で、変わらぬ学園生活が守られた。

優れた大学教授を次々と顔の広い三井先生が呼んでこられては特別講義をしていただいた。(中略) 急速に垂れ込めてくる暗雲のなかで、ここだけは世界に向けてしっかりと開いている窓であつたような気がする。(『学舎はのびのびと楽しく』より)



開校式の劇



昭和16年11月 展覧会



昭和16年11月 学芸会 狂言『附子』
衣装も本物、所作も本物、言葉だけが英語である。
所作の指導は大蔵流の大先生であった。
(『学舎はのびのびと楽しく』より)



昭和16年4月 職員写真



昭和17年10月 初めての修学旅行(初等部・高等女学部の集合写真)
初等部、中学部、高等女学部が関西方面へ少しずつコースを変えて
同じ時期に行った。



昭和16年4月22日、創立記念日



昭和19年3月 高等女学部文芸会
英語劇『十二夜物語』シェークスピア

学童疎開生活

昭和19年8月、学童疎開の国策に従い、初等学校3年生以上の児童22名が拝島に疎開した。現在の北泉寮が生活と学習の場であった。



昭和19年 授業風景



兵隊ごっこ

僕達はこの前から、耕ちゃんを大隊長として、兵隊ごっこをしています。もう男子はもちろん、女子も銃を手にはしています。この兵隊ごっこは何でも軍隊しきにやり、軍隊の名前は、拝島啓明特攻隊で、とてもよい名です。（『多摩川は澄んでいた』より）



後方は防空壕

お腹がすくとか、家に帰りたいとかはそれは当たり前ですが、ほんとうに楽しい毎日で、啓明の集団疎開は世間に伝えられる集団疎開とはちがっていました。（『四十周年記念誌』座談会より）



昭和21年 戦後もしばらくは拝島の生活が続いた



北泉寮前には跳び箱が置いてあった



多摩川に落ちた焼夷弾の破片
(旧疎開児童より寄贈)

寮生活

学童疎開に引き続き、遠方より通学する児童生徒らのために寮教育が行われた。平成12年をもって閉寮。



北泉寮布団干し



昭和30年頃 北泉寮食堂



昭和40年頃 女子寮ロビー



昭和50年頃 部屋でのひととき



昭和50年頃 クリスマス会



学期末で初等生全員集合（昭和53年「家庭画報」より）



食前食後にお祈りする。盛り付けも後片付けも子どもたちの手で（同「家庭画報」より）



平成12年2月 閉寮パーティー

どのようなときにも、友を愛すれば 苦難のときの兄弟が生まれる。（談言17・17）

啓明牛乳

昭和27年、児童生徒の発育を助けるため、ビックスラー理事長が二頭のジャージー牛を現在の大グラウンドで飼い始めた。(～46年)



その牛乳は濃くて、しばらくそのままにしても、びんの口のところにクリームが厚くたまり、びんをさかさまにしても牛乳がこぼれないほどであった。
(『学舎はのびのびと楽しく』より)



牛舎



牛舎を望み写生



啓明学園牧場の看板の前で



奥多摩街道脇の校地に販売のために作られたスタンド



初等学校生と

学園生活 昭和20年代

戦争が終わり平和な時代を迎えた。物資の不足で食糧も机も制服もなかったが、遅しく前向きな学園生活を取り戻した。
農地改革から校地を守るため、先生たちの努力があった。



マッチ箱教室前で



バス停付近



多摩川より伏見寮・マッチ箱教室を望む



仮装大会



北泉寮前



拝島駅前 制服がまだ揃っていない



拝島駅ホーム



農業課程（昭和23～26年）の生徒と実習風景



ラジオ体操

学園生活 昭和30年代

人々の生活が安定し、学園もブロック校舎、木造チャペルの建設など学校施設が整い、キリスト教教育、個人尊重の教育が行われた。生徒数が急増し、“帰国子女”の編入も見られるようになった。



北泉寮前



後方に背の低いヒマラヤスギが見える



通学路



運動会仮装行列



福生の七夕まつり



多摩川の土手で



J校舎付近



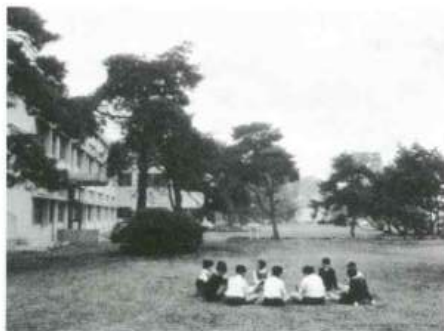
多摩川での中村勘三郎主演映画口ケ（昭和33年）



ブロック校舎での授業

学園生活 昭和40年代

ベトナム戦争の激化に伴い、横田基地の騒音も激しくなり、防音校舎（現E校舎）の建設が行われた。
高度成長期の中で、帰国子女も増加し、昭和47年文部省の「海外勤務者子女教育研究協力校」の指定を受ける。



北泉寮前での授業



朝の礼拝



スピーチコンテスト



日産自動車駐車場前（現野球場付近）



昭和46年 創立記念日の集会
式典では学園歌が発表された



ブロック校舎裏の初等学校遊戯場



校舎前の芝生



初等学校の英語の授業



北泉寮前での体育の授業



昭和47年 高校新入生歓迎会

学園生活 昭和50年代

三井高維理事長のもと菅野尚明校長を中心に体育館の建設、五日制の導入など、学校としての体制も整い、充実した教育が行われた。帰国子女だけでなく、外国人子弟の教育にも力を入れ、交換留学制度を設け、「世界を心に入れた教育」が進められた。



いも掘り 現力フェテリア付近の畑で



昭和51年 福生プールでの水泳教室



昭和52年 家庭科ゆかた制作発表会



昭和53年 宇宙博見学



下校風景



啓明バッグ



帽章



中学新入生歓迎会



合唱コンクール



男子は制帽を着用していた
(中学は平成元年まで)

学園生活 昭和60年代

昭和60年菅野尚明校長が退任し、香川弘校長のもと、S校舎建設、定員増と更なる発展を目指した。



もちつき
長いスカート・太いズボンが流行だった



S校舎工事現場見学



昭和63年 スキー教室



昭和63年 多摩川で



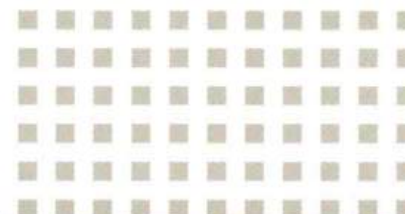
バスケットコート
(現初等学校体育館付近)



スピーチコンテストの優勝者



昭和60年 スケート教室



大グラウンドに通じるX階段
(昭和62年 運動会「着せ替え」)



S校舎職員室



昭和60年 高校卒業写真 新しい時代へ

学園生活 平成以降 初等学校

S校舎完成に伴い、初等と中高が別々の生活となる。中休み・生活着・牛乳給食などが導入された。

児童会活動が盛んになり、学年を越えた行事が行われるようになった。総合学習にも力を入れ、啓明本来の子どもらしくのびのびとした生活が深まった。



平成4年 合唱発表会



平成5年 6年生野焼き



平成5年 新入生歓迎滝山ハイキング



平成6年 多摩川にて



平成5年 たて割りグループの七夕飾り作り



平成9年 1年生国語 劇遊び『大きなかぶ』



平成13年 6年生国語の授業



平成11年 3年生 北泉寮体験学習



平成17年 5年生農園での田植え



平成18年 雪遊び

学園生活 平成以降 中学高等学校

J校舎の完成により中高別々の活動ができるようになり、委員会活動、行事の中で生徒の自主性が発揮された。



平成6年 高校農園の収穫祭



平成6年 高校卒業を祝うティーパーティー
手作りのケーキとお茶のサービスは英子先生



平成7年 高校卒業写真
後列男子の手にはポケベル 女子はルーズソックスが流行



平成13年 ゴミ対策委員会



平成14年 マラソン大会



平成20年 中学合唱コンクール



創立60周年

体育館での発表(高校)

日韓高校生フォーラム



平成19年 高校野球部 夏季大会



平成21年 北泉寮前での美術の授業



平成21年
インターアクトクラブのクリスマス奉仕活動



スロバキア マーキュリー校との交流(中学)

国際学級

昭和47年文部省より「海外勤務者子女教育研究協力校」に指定され、必要な教科だけホームルームから取り出す「混入取り出し方式」による、初中高合同の国際学級がスタートする。昭和48年国際学級プレハブ校舎が完成する。時代が変化しても、授業の進め方は創立以来変わることなく、進度表を用い、個別指導の授業法がとられている。



時間割 (昭和50年頃)

緑は中学生、黄色は高校生、赤は初等生の名前が記され、誰がどの時間にどの先生の授業かがわかるように工夫されていた



教科ごとに学年をこえてグループになり、それぞれの学習を進めた



S校舎建設中は、初等学校はE校舎2階、中高は1階の教室に国際学級を移動する



昭和63年 S校舎が完成し、教科教室制がとられ、各教科スペースで取り出し授業が行われる



平成7年 S校舎多目的ホールを使用



S校舎が完成後、日本語コースは独立して北泉寮で行った (~平成15年)



進度表の記録により、生徒は学習を自己管理し、教師のコメントにより指示が与えられる



現在の初等国際学級



現在の中高国際学級
J校舎が完成し、S校舎旧職員室を国際学級・日本語コース取り出し教室とする

国際交流の先駆け

昭和40年後半より、帰国子女だけでなく外国籍の子弟、留学生を受け入れるようになる。専任の外国人教師も迎えた。

昭和52年、オーストラリア・シドニーのクランブルックスクールと姉妹校となり、交換留学が開始。以後、姉妹校も増え、交流が世界へと広がる。



昭和52年
シドニー・クランブルックスクール交換留学生歓迎会



関西旅行



昭和61年 アップウィズピープル来校



昭和52年 ペロン先生とコーディネーター先生
外国人教師はゲストハウス(旧伏見寮)に滞在し、寮生と交流した



昭和53年
アメリカからの留学生(後列左端)
帰国後、単身再来日し、卒業した



小田原、三井邸にて(昭和55年頃)
恒例となっていた、帰国生、外国人教師らを
招くパーティー



平成6年 初等学校生と



平成10年 留学生の茶道の授業



昭和61年 パティ先生と



平成8年 留学生も運動会に参加



平成5年 平野理事長と留学生たち



平成19年 モンゴルからの留学生

国際交流 初等学校

各国からのゲストティーチャーや帰国生の家族を通しての文化体験が、世界と出会う機会となっている。



平成6年 北泉寮前に本格的なゲルを建てる



平成9年 1年生ハロウィン・パーティー



平成13年 スロバキア・デー



平成20年 コリア・デー



平成20年 モンゴル・デー
姉妹校ソドエルデム校の先生と包子作り



平成21年 ゲストティーチャーの交流授業

横田イーストスクールとの交流



平成10年 5年生 もちつき



平成15年 2年生 ひな祭り



平成16年 2年生 訪問

国際交流 中学高等学校

長期休暇を利用し、海外体験を行っている。

姉妹校との交流



平成7年 ニュージーランド



平成11年 中国



平成12年 スロバキア



平成19年 モンゴル



平成20年 オーストラリア



平成元年 カナダ



平成9年 アメリカ オレゴン



平成19年 ドイツ

クリスマス礼拝

今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。（ルカによる福音書2：11）



昭和26年 北泉寮にて



昭和30年頃 木造チャペルにて



昭和30年 アメリカ大使館
クリスマス慈善パーティーでコーラスの奉仕



昭和45年頃 幼稚園旧園舎にて



平成4年 初等学校



平成14年 幼稚園

軽井沢バイブルキャンプ

軽井沢寮で昭和41年よりバイブルキャンプが行われるようになる。高3、中3が必修、初等は3年生以上の有志参加であったが、後に高1、中1、初5が必修となった。聖書の学び、労作、賛美奉仕を行った。また毎年、準備のため有志によるワークキャンプが行われた。



昭和40年頃 軽井沢寮全景



昭和54年 高校キャンプファイヤー



昭和56年 旧軽井沢 賛美奉仕



昭和53年 バーベキューでの先生方



昭和54年
水星寮台所から金星寮へ食事を運ぶ



昭和54年 初等学校 賛美練習



労作後の記念



昭和61年 ワークキャンプのふとん干し

運動会

第一回運動会は昭和15年10月、赤坂台町校舎前の庭（運動場）で行われた。その後場所を変えながら行われ、昭和54年より、大グラウンドとなった。初中高合同で行われていた運動会は、平成12年より初等と中高を分けて実施している。



昭和16年 中目黒アメリカンスクール校庭



昭和18年 三井浜田山グラウンド



昭和20年代 現在の大体育館から小グラウンドの場所



昭和30年代 木造チャペル前庭



昭和58年 中神三井グラウンド



昭和62年 S校舎工事中のグラウンド



平成6年 大グラウンドで



昭和20年代 組体操



昭和20年代 雨 雨 ふれふれ



平成7年 だるま運び



昭和54年 着せ替え



扇と鈴のダンス (平成4年より)



昭和62年 高校女子創作ダンス



平成3年 棒引き



柔道乱取りの型(昭和51年より)



平成5年 鼓笛隊



平成10年 棒倒し



平成10年 応援団



平成16年 応援合戦のダンス



平成12年 沖縄民舞「ミルクムナリ」

文化週間から文化祭へ

昭和38年より文化週間が始まり、初中高合同で、音楽、劇、学習の発表と模擬店などが行われた。平成元年より中高生徒会主催の文化祭となり、テーマを設け、クラス毎の企画、クラブ、有志の発表など自由活発な表現の場となった。



昭和56年 英語劇



昭和63年 演劇部



平成21年 ミュージカル ライオンキング



昭和55年頃



アコースティックからエレキへ



平成7年 中2クラス展示「枯山水」



平成3年 教科展示



昭和58年 文化週間実行委員による模擬店



平成2年 模擬店



平成21年 模擬店



平成元年 第1回文化祭アーチ



平成21年 第21回文化祭アーチ



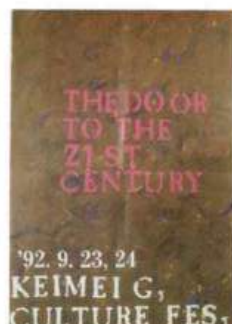
1989年



1990年



1991年



1992年



1993年



1994年



1995年



1996年



1997年



1998年



1999年



2000年



2001年



2002年



2003年



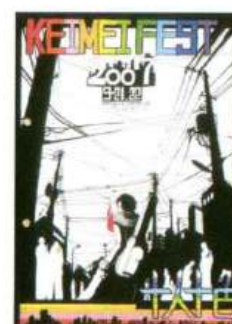
2004年



2005年



2006年



2007年



2008年



2009年

学芸会

劇の発表は、創立以来さまざまな場で行われてきたが、現在では、初等学校の学芸会につながっている。



昭和20年代



昭和30年代



昭和30年頃



昭和50年代『白雪姫』



平成14年 5年生「走れメロス」

『子ひつじ ピコ』は、
毎年一年生の演目となっている。

あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、
その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に
残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らない
だろうか。

ルカによる福音書15:4



昭和50年 初演



平成19年 オオカミや妖精が加わり、羊の数がぐんと増えた

修学旅行・体験学習 初等学校

平成13年まで30年余り続いた中部・東海「水の旅」の修学旅行は、平成14年京都・奈良 歴史の旅へと変わり、18年からは広島平和学習を加えた。4・5年生の体験学習も行われている。

中部・東海 水の旅



平成元年 天竜川 舟下り



平成4年 浜松 蛭塚遺跡



平成4年 浜名湖 潮干狩り



平成18年 4年生 奥多摩体験学習 源流を訪ねて



平成19年 京都・奈良



平成19年 広島



平成14年 5年生 清里体験学習 林の中の早朝礼拝



平成19年 5年生 菅平雪の学校 イグルー作り(平成15年より)

修学旅行・体験学習 中学校

各地を巡る修学旅行から、平成5年より雫石での農業体験を主とした体験学習となる。



昭和51年 飛騨高山



昭和54年 佐渡ヶ島



昭和57年 信楽



昭和59年 広島



昭和62年 瀬戸大橋



平成14年 雫石体験学習
田植えを終え農協青年部の方々と共に



平成20年 田植え



平成11年 わんこそば

修学旅行 高等学校

北海道、関西、九州と、生徒の希望をとり入れ各地を旅したが、平成10年より平和学習を主とした沖縄修学旅行となる。



昭和30年代 北海道



昭和40年代 関西



昭和51年 長崎



昭和57年 津和野



昭和62年 平戸



平成4年 九州 柳川



平成7年 九州 有明海 ガタリンピック



平成14年 沖縄 首里城



平成21年 沖縄 カヌー体験



昭和60年 長崎

幼稚園

昭和42年とんがり屋根の木造園舎が完成し、啓明学園幼稚園が開園した。昭和48年には、防音新園舎が完成する。
ケヤキ、カエデ、ヒノキなどの木々に囲まれ、自然の中で、のびのびと豊かな心が育まれている。



旧園舎正面



園庭より



ミセスピックスラーは賛美指導を行っていた



昭和43年 ひな祭り



昭和44年 ディーン・ピックスラー理事長の礼拝



昭和44年3月 第一回保育修了式



昭和44年 園舎の前で



昭和45年 菅野園長と共にこいのぼり制作



昭和48年 新園舎完成



昭和60年 北泉寮前での運動会



平成21年 砂場遊び



平成15年 クリスマス



昭和58年 夏季保育



平成14年 榎の下で緑陰コンサート



平成15年 プール遊び



平成元年 三井英子理事長とひな祭り



昭和54年 卒園式



平成13年 謝恩会



平成14年 卒園児一人ひとりの紙人形の前で

北泉寮

北泉寮は、鍋島直大侯爵の屋敷として、麴町区永田町（現在の首相官邸の場所）に建てられた。

昭和2年三井高維の父高棟が買い受け、拝島に別荘として移築。昭和18年啓明学園に寄贈された。

戦中戦後を通し、教室、寮として使われ、後に茶室、柔道場、美術室に使われるようになる。平成元年大改修後は茶道の授業と「親の会」など多くの活動で使われている。



昭和2年1月 永田町より移築



昭和20年 職員会



昭和29年 卒業式



昭和30年頃



平成9年 北泉寮全景



昭和30年頃 北泉寮前の雪景色



一階は柔道場（昭和49年～63年まで使用）



昭和54年 茶道の授業



平成元年5月 大改修終了を記念して寮生が誕生会を行う



昭和26年 現美術室北側の門 現在は石畳のみ残る



昭和30年頃 旧通用門 北泉寮大玄関前
現在は北側塀に沿って石垣のみ残る



昭和20年代後半 旧通用門のクリスマス飾り



昭和35年頃 旧正門 奥多摩街道沿い



昭和60年頃 冠木門(数寄屋門)



現在の通学風景

校舎

昭和42年に完成したE校舎は、初中高一緒の生活の場であった。その後人数の増加と共にS校舎に中高が移り、さらにJ校舎に中学が移り現在に至る。



昭和42年 E校舎完成



現在のE校舎



昭和50年 大体育館完成



昭和63年 小体育館完成



昭和68年 S校舎完成



平成9年 J校舎完成



平成15年 初等体育館完成



独立校舎（マッチ箱教室）昭和25年



木造チャペルとブロック校舎 昭和30年代



国際学級プレハブ校舎 昭和50年代



教寄屋門付近より見たブロック校舎 昭和40年代



ブロック校舎廊下



S校舎より見たブロック校舎食堂 昭和60年代



昭和40年代



現在の美術室付近

校舎



昭和40年代



平成7年



昭和20年代

ザリガニ池



昭和30年代



昭和30年代



昭和60年代



昭和50年代



北泉寮前庭



“哲学の道”



伏見寮付近



体育館へ下る坂道



“まむし谷” 周辺



立川堀に架かる橋



多摩川



昭和20年代 蛇籠



昭和20年代 滝山へ向かう橋



昭和28年



昭和30年代



昭和40年代 生徒寮屋上より



昭和30年代



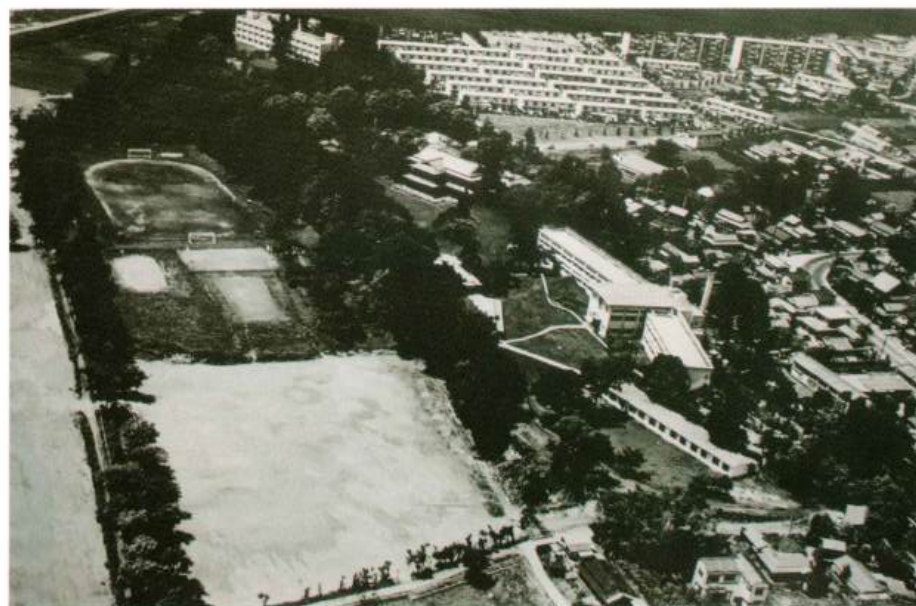
平成12年 初等学校 新入生歓迎 滝山ハイキング



昭和23年
真中が奥多摩街道
カーブの周辺が北泉寮



昭和38年
木造チャペル、ブロック校舎
右に牛舎
グラウンドにK.C.A.の人文字



昭和42年
中央に防音校舎（現E校舎）
北泉寮右に幼稚園



昭和63年
S校舎、大体育館、小体育館が加わる



平成14年
J校舎が加わる



平成21年
初等体育館が加わる
撮影 山本 直洋(53回生)

PTA・親の会

学園にとって保護者の協力援助は欠くことのできないものであった。
バザーをはじめ、様々な催しが行われている。平成15年より「親の会」となる。



昭和35年 模擬結婚式
米軍キャンプでPTAによる日本式の模擬結婚式を行った。まだ日本文化を知らない米国軍人の夫人たちから大変な評判を得た。



昭和61年 聖書講義室バザー



平成3年 体育館バザー



平成6年 お父さんの会「みんなのとりで」完成



くまどり

北泉寮を楽しむ会



薪能



十二単の着つけ



平成2年 ファミリーコンサート



平成3年 バザー インターナショナルフーズ村



平成21年 お父さんの会バーベキュー

1940年 [昭和15年]	3月	啓明学園小学校認可。
	4月	東京府東京市赤坂区台町、三井高維私邸にて開校。(生徒数8名) 木村重治、初代校長に就任。
	10月	第一回運動会を赤坂台町の校庭で行う。(生徒数13名)
1941年 [昭和16年]	1月	海外勤務者の家族の帰国が始まる。(秋には生徒数60名となる。)
	4月	国公立小学校が国民学校と改称されたのに伴い、初等部と改称。 中学部・高等女学部認可。 樺山愛輔、初代理事長に就任。 三井高維の誕生日(4月22日)を創立記念日とする。
	7月	初等部夏期学校を拝島村三井家別邸で行う。(宿泊は龍津寺)
	4月	三井八郎右衛門氏より後に校地となる別邸の土地建物が寄贈される。 東京都の要請により中学部・高等女学部に海外勤務者の子弟以外の生徒の 入学審査を行う。
1943年 [昭和18年]	9月	中学部を拝島の校地に移し、全寮制とする。
1944年 [昭和19年]	3月	啓明学園初等学校・中学校・高等女学校と改称。
	8月	初等学校3年生以上の児童22名が、拝島に集団疎開する。 中学校は赤坂台町に移る。
1945年 [昭和20年]	3月	赤坂台町にて、初等学校・中学校・高等女学校の卒業式を行う。
	5月	東京最後の空襲で赤坂台町校舎焼失。 中学校・高等女学校は勤労動員のために軽井沢に移る。
	8月	終戦を受けて集団疎開児童帰宅。
	10月	拝島にて、集団疎開した児童と中学・高等女学校の生徒あわせて50名程度で 授業を再開。
1946年 [昭和21年]	4月	戦後の混乱のため、4日制を余儀なくされる。
	9月	G H Qによる財閥解体で三井本社は解散。学園は経済的基盤を失ったが、少 人数制教育を貫いた。

1946年 [昭和21年]	10月	農地改革により、拝島の敷地が解放を求められるが、職員らの努力により、 校地として認められる。
1947年 [昭和22年]	4月	中学校を第一中学校、高等女学校を第二中学校と改称する。
1948年 [昭和23年]	4月	高等学校を設置し、普通課程と全寮制の農業課程を置く。 第一中学校と第二中学校を合併し、中学校と改称。
1951年 [昭和26年]	3月	私立学校法施行にともない、学校法人啓明学園となる。 米人宣教師O・D・ビックスラー、理事長に就任。キリストの真精神を教育の 基礎に置く。 菅野尚明、初中高校長に就任。
	4月	学校週5日制を実施。初中高合同の礼拝を毎日行う。
	7月	現在の北泉寮で、第1回バイブルキャンプを行う。
1953年 [昭和28年]		理事長夫妻と保護者による手作りのバザー開催。
1955年 [昭和30年]		バザーの収益により、現E校舎の場所にブロック校舎と木造チャペルが完成。
1960年 [昭和35年]	4月	日曜日に全生徒が登校し、礼拝を行う。
1963年 [昭和38年]	4月	日曜日の礼拝後に聖書の授業が行われる。(～1970年3月)
	11月	第1回文化週間開催。
1964年 [昭和39年]	11月	生徒寮完成。
1965年 [昭和40年]	7月	中軽井沢前沢の啓明学園寮が完成し、以後毎年バイブルキャンプを行う。
1967年 [昭和42年]	7月	防音の新校舎(現E校舎)完成。
	9月	幼稚園開園、園舎完成。菅野尚明、園長に就任。
1968年 [昭和43年]	9月	O・D・ビックスラー理事長が、本学園のための渡米中に急逝。

1968年 [昭和43年]	9月	ディーン・ビックスラー、理事長に就任。
	11月	故O・D・ビックスラー学園葬。
1970年 [昭和45年]	1月	ミセス ビックスラーが米国で逝去。学園葬。
	6月	三井高維、理事長に就任。
1971年 [昭和46年]	4月	学校週6日制に移行する。 創立30周年記念式典にて学園歌の発表。
1972年 [昭和47年]	1月	文部省より海外勤務者子女教育研究協力校の指定を受ける。
	4月	現在の原型となる、「混入取り出し方式」による国際学級設置。
	7月	キリスト教学校教育同盟に加入。
1973年 [昭和48年]	1月	防音幼稚園園舎完成。
	4月	国際学級教室完成。
1974年 [昭和49年]	3月	帰国子女教育研究協議会「中学高校部会」が開催され、帰国子女教育の先駆 として注目される。
1975年 [昭和50年]	12月	体育館完成。 第1回スキー教室実施。
1976年 [昭和51年]	4月	創立35周年記念式典挙行。
1977年 [昭和52年]	4月	オーストラリア・シドニー、クランブルックスクールとの短期留学制度を作る。
	12月	第1回クランブルックスクールより交換留学生3名来校。
1978年 [昭和53年]	4月	学校5日制を再び実施。
	9月	「啓明学園国際教育基金」米国公益法人として認可。
	7月	クランブルックスクールへ第1回の交換留学生として男子2名を派遣。
1979年 [昭和54年]	7月	三井高維理事長、逝去。

1979年 [昭和54年]	9月	故三井高維学園葬。 三井英子、理事長に就任。
	12月	オーストラリア・メルボルン、セント・キャサリンススクールより留学生来校。
1980年 [昭和55年]	10月	大グラウンド完成。 創立40周年記念式典挙行。
1982年 [昭和57年]	6月	野球場完成。
	11月	菅野尚明校長、「勲四等瑞宝章」を受章。
1983年 [昭和58年]	11月	国際学級ディレクター本間平安子、「文部大臣賞」を受賞。
1985年 [昭和60年]	9月	香川弘、幼稚園園長、初中高校長に就任。 菅野尚明、名誉校長に就任。
1986年 [昭和61年]	9月	平野吉三、国際学級ディレクターとして着任。
1988年 [昭和63年]	1月	第1回ファミリーコンサート開催。
	4月	三井高維メモリアル校舎（S校舎）・小体育館（柔道場）完成。 中高教科教室制の導入。
1989年 [平成元年]	4月	三井英子理事長、初中高校長に就任。 堀常子、幼稚園園長に就任。
	5月	新校舎（S校舎）落成記念式典。
	7月	北泉寮（旧寮より改称）大改修工事終了。
	12月	学園広報誌「いずみ」創刊。
1990年 [平成2年]	4月	創立50周年を迎える。 平野吉三、初中高校長に就任。
	10月	三井英子理事長、教育功労者として「都知事賞」を受賞。
1991年 [平成3年]	4月	アメリカ・ニュージャージー、タフトスクールとの長期留学制度を作る。

1991年 5月 三井英子理事長、「勲五等宝冠賞」を受賞。
[平成3年] 11月 学園、国際理解教育の実績により、「博報賞」「馬場賞」を受賞。

1992年 5月 P T A「お父さんの会」発足。
[平成4年]

1993年 4月 ホームルーム制へ復帰。
[平成5年]

1994年 4月 平野吉三、学園長に就任。
[平成6年] 6月 菅野尚明名誉校長、逝去。学園葬。

1995年 12月 創立55周年記念事業始まる。(J校舎建設)
[平成7年] オーストラリア、カンタベリーカレッジと姉妹校締結。

1997年 1月 平野吉三、理事長に就任。
[平成9年] 4月 中学新校舎(J校舎)完成。
薄衣修二、中高校長に就任。
武部優子、初等学校校長に就任。
5月 三井英子前理事長、逝去。
9月 故三井英子学園葬。

韓国、中東学院と姉妹校締結。

1998年 6月 第1回啓明学園フォーラム開催。(第3回まで)
[平成10年]

1999年 4月 北原福二、中高校長に就任。
[平成11年] 9月 北泉寮、文化財として文化庁に登録。

スロバキア、マーキュリープライベートカレッジと姉妹校締結。

2000年 3月 生徒寮閉寮。
[平成12年] 11月 創立60周年記念式典挙行。

2001年 4月 佐々信行、初等学校校長に就任。
[平成13年]

2002年 4月 横内繁樹、中学部長・池田紀子、高校部長に就任。
[平成14年] 斎藤広行、幼稚園園長に就任。
啓友会「三井高維国際教育基金」を設立。
5月 第1回図工・美術作品展開催。

2003年 4月 池田紀子、中高部長に就任。
[平成15年] 初等学校体育館完成。

2004年 4月 平野吉三、中高校長に就任。
[平成16年] モンゴル、ソドエルテムスクールと姉妹校締結。

2005年 4月 蕪木豊、中高校長に就任。
[平成17年] アメリカ、セントメリーズホールと姉妹校締結。
オーストラリア、トリニティ・アングリカンスクールと姉妹校締結。

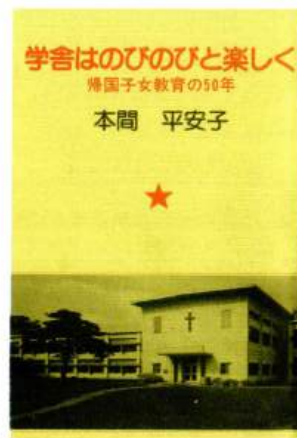
2007年 1月 初等学校図書館(DOMVS VERITATIS)完成。
[平成19年]

2008年 4月 宮坂和代、幼稚園園長に就任。
[平成20年] 今野博、初等学校校長に就任。
佐々信行、中高校長に就任。
5月 創立70周年記念事業始まる。(北泉寮改修工事等)

2010年 3月 北泉寮、東京都有形文化財に指定される。
[平成22年] 6月 創立70周年記念式典挙行。

何事にも時があり
天の下の出来事には
すべて定められた時がある。

コヘレトの言葉 3:1



編集のための参考図書

HISTORY OF KEIMEI GAKUEN

1940~2010 70th Anniversary

発行日 : 2010年4月22日

発行 : 学校法人 啓明学園
東京都昭島市拝島町5-11-15

印刷 : 株式会社 立川印刷所